

麻酔科

一般目標（G I O）

社会人および医師としての人格を養うとともに、将来の専門性にかかわらず、麻酔科研修として術前回診、手術麻酔、術後回診を通して患者の状態の解釈し、それに対する計画、対処が実践できるようにする。その上、患者を全人的に診察、治療する態度、およびチーム医療の必要性を十分に配慮した協調性と協力性を身につける。また麻酔を行うための手技についても積極的に取得できるようにする。

行動目標（S B O s）

1. 診療に対する態度

- ① 患者を全人的に診察する態度を身につけ、信頼関係が築ける。
- ② 医師およびコメディカルとコミュニケーションができ、チーム医療が実践できる。
- ③ EBMに基づいた医療ができる
- ④ 保険医に必要な知識を身につける
- ⑤ 自らへの感染を防ぐ習慣を身につける。
- ⑥ インシデント、アクシデントが生じてしまった場合、その内容を正確に報告できる。

2. 術前回診

- ① 患者の間診及び診察が確実にできる。
- ② 術前回診という短い時間の間に、患者からより多くの情報を得ることができる。
- ③ 術前の患者の状態・合併症について、診療録・レントゲン・問診・診察などにより正確に把握・評価することができ、その上で、異常所見を報告できる。
- ④ 術前回診から得られた情報を元に、指導者と適切な麻酔法・術中管理法を計画することができる。
- ⑤ 悪性高熱症に関する知識を身につける。
- ⑥ 輸血の適応・合併症に関して正しく理解する。

3. 手術麻酔

- ① モニタリングについて理解する。（機器の操作等も含む。）
- ② 血液ガス分析とその解釈ができる。
- ③ 用手および機械的人工呼吸ができる
- ④ 麻酔中刻々と変化する患者の状態を常に把握し、異常事態を異常事態として確実に捕らえ指導者に報告できるようになる。
- ⑤ 様々な麻酔方法を体験し、理解を深める。
- ⑥ 循環作動薬等について、適応やその作用についての正しい知識を持って使用できるようになる。
- ⑦ 人工呼吸に関して正しい知識を身につける。
- ⑧ 救命救急の基本的な手技ができる。

4. 術後回診

術後回診を行ない、手術後の患者に起こる様々な問題点を認識し、それに対する対処法について理解を深める

5. 経験すべき手技
 - ① 気道の確保
 - ② 人工呼吸
 - ③ 末梢ルート確保
 - ④ 気管挿管
 - ⑤ 基本的輸液法
 - ⑥ 輸血
 - ⑦ 膀胱留置カテーテル挿入
 - ⑧ 胃管挿入
 - ⑨ 観血的動脈圧ライン挿入
 - ⑩ 挿管補助道具による気管挿管

方略（LS）

1. オリエンテーション
 - ① 本研修プログラムに基づき、研修の意義や目標、スケジュールについて確認する。
 - ② 病棟スタッフに自己紹介する。
2. 病棟研修
 - ① 術前回診を行い、指導医の指導の下、診察診断のチェックを受け麻酔計画を立てる。
 - ② 術後回診を行い（少なくとも手術当日と翌日）患者の状態を把握し指導医のチェックを受ける。
 - ③ 手術中の麻酔については指導医の指導の下、麻酔法を体験理解するとともに患者の状態を把握し麻酔管理を行う。
3. 救急研修
4. カンファレンス等、科の行事への参加
5. 自習
 - ① 悪性高熱について
 - ② 人工呼吸について
 - ③ 麻酔薬について
 - ④ 循環作動薬等について
 - ⑤ 各経験すべき手技について

スケジュール

(月)～(金)	8:15		17:15
		術前回診・手術麻酔・術後回診	

当日の麻酔症例の検討会を中央手術室麻酔科医師室で朝8:20から行う。

評価（Ev）

1. 評価は、観察記録とし、研修医および指導医が1か月毎に行う。
2. プロフェッショナリズム、資質・能力についてはプログラム全体の評価の該当する項目で評価する。
3. 麻酔科独自の目標に関しては専用の用紙を用いて評価を行う。